

地理学専攻（修士課程）の3ポリシー

【教育の理念】

地理学専攻は、駒澤大学大学院全体のポリシーに基づき、特に地理学に関する幅広い教養と専門分野の体系的な知識・技術を身につけ、その知識・技術をもって社会の発展に寄与する人材の育成を行うことを教育の理念とする。

上記の理念を達成するために、修士課程においては、講義・演習・実習・修士論文作成上必要とされる研究指導について、これらのバランスが取れた体系的な教育プログラムを提供する。そして、ここで学んだ専門性を生かし、地理学に関連する専門分野において先導的な立場で積極的に行動することが出来る人材の育成を目指す。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

地理学専攻は、専攻の教育理念に基づき定められた下記の3つの能力を身につけ、所定の必修科目・選択科目の単位を修得し、修士論文審査に合格した者に対して「修士（地理学）」の学位を授与する。課程修了者は、高度な専門知識と問題解決能力を有し、専門知識を必要とする指導的立場の教員や専門職従事者として社会に貢献できる人材となる。修士論文の基準については学位審査基準に明記する。

（DP1）専門分野の知識や技能の活用力

専門分野に関する高度専門的な学識と、幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、専門分野における先導者として、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に対応するだけでなく、積極的に新たな価値を創造・提案し、地域社会・国際社会・産業界に還元していくことができる。

（DP2）情報分析、課題設定および問題解決能力

基礎的な知識や先行研究を踏まえ、自ら主体的に課題を設定する力と、さらに高度な専門的な情報を収集・分析して適正に判断・思考しながら、問題解決までの道筋を論理的に展開できる実行力や新たな知見を見出す能力を兼ね備えている。

（DP3）コミュニケーション能力

フィールドワーク、論文作成、プレゼンテーション等を通じて、自らの考えを論理的かつ明確に伝えると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて世界に向けて自らの考えを発信することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

地理学専攻修士課程においては、指導教員の演習8単位、選択科目22単位以上を履修する。1年次には、専門分野および関連分野の高度な知識を、講義・演習・実習により修得する。同時に、文献講読・資料調査・予備調査を実施し、演習での議論を通じて、研究課題の理論的・実践的基盤を形成する。2年次には修士論文の作成を目的とし、調査計画の立案・調査の実施・データ分析・論文執筆の各段階で、綿密な議論を繰り返し、完成度の高い修士論文を作成する。科目の履修にあたっては、法政大学・明治大学・専修大学・国士舘大学・

日本大学の各大学院の地理学専攻との間で単位互換制度を設けており、他大学院の専門研究者の科目も履修できる。

さらに、研究における不正行為が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、地理学専門分野の学部基礎教育を修得していることを前提に、地理学における専門基礎力および学術研究動向を理解し、研究を遂行するための理論的・技術的基盤を築くことを目的として開講する。
- 2) 演習科目は、修士論文の作成上必要とされる様々な研究指導を、きめ細かに行うために開講する。
- 3) 実習科目は、研究遂行のために必要な分析・解析技術の修得とフィールドワークの経験を積むことを目的として開講する。
- 4) 1～3の集大成として修士論文を完成させ、それについて、発表、審査および最終試験を実施する。

2. 教育方法

- 1) 講義科目は、少人数での個別・グループ形式で行う。学生は、指導教員および各自の研究テーマに特に関連する教員の講義科目を選択して履修する。
- 2) 演習科目は、主として指導教員から指導学生に対する研究指導という形で行う。学生は、指導教員と密接なコミュニケーションを取りながらこの科目を履修する。
- 3) 実習科目は、教員が定めた実際の研究テーマに対し、研究計画立案、研究の実施、報告書の作成等、研究の一連の流れに基づいて指導を行う。
- 4) それぞれの授業科目を、組織的に履修することにより、専門性を追求しながらも狭量な思考に偏らないよう、指導教員を中心に指導を行う。
- 5) 修士論文の審査にあっては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力を身につけていることを詳細に確認する。
- 6) 研究倫理教育は、研究科・専攻に抛らない一般的な内容についてはeラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、指導教員を通じて指導することにより補完する。
- 7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へフィードバックを行う。

3. 評価

地理学専攻修士課程では、人文科学研究科の定める評価方法に基づいて学修成果の評価・測定を行う。その中でも特に、最終成果の測定方法として修士論文の質を重視する。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
-------	------	------	-----	-----	-----	----------

講義科目	2~4	1・2	◎			専門分野の知識および情報収集・分析などの研究活動上必要な知識や手段について体系的に身につける。
演習科目	4	1・2	○	◎	○	個別の研究テーマに基づき、指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行い、修士論文作成に役立てる。
実習科目	2	1・2	◎	○	◎	専門的な技術を基に、実社会において調査・分析等を行う。
修士論文	—	—	○	◎	◎	2年間の学修の集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	○	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身につけ、意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

地理学専攻修士課程では、地域に関わる諸分野に関心を持ち、地域の本質やメカニズム、地域に内在する諸問題を究明するために、主体的に総合的かつ専門的学術研究を積極的に行うと同時に、目的意識を持って社会貢献できる、教員を含む専門職や研究職を目指す情熱を持った入学者を求めます。

こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するため、一般入学試験（学内推薦入学試験を含む）と社会人特別入学試験により入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

- (AP1) 地理学に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 地理学専攻で学んだ専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 地域社会、国際社会、産業界の事象について主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠をもって論理を展開することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの考えを適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験 (学内推薦入学試験を含む)	出願書類	○	◎	◎		学士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識と語学力を重視した選抜を行う。筆記試験は記述式で行い、専門科目試験と外国語(英語)の2科目で実施する。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認等を行う。学内推薦入学試験では、学士課程における学業成績の要件を満たしているかを確認した上で、出願書類審査と面接試験により選抜を行う。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	◎	◎		○	
社会人特別 入学試験	出願書類	○	◎	◎		主に大学卒業後一定年数経過した者、および大学卒業後に専門分野に係る事務経験が2年以上の者を対象とする。特にこれまでの研究実績または入学後の研究計画を重視し、書類審査と「卒業論文またはそれに準ずる最近の成果の発表と質疑応答」により選抜を行う。
	筆記試験	◎		○	○	
	成果の発表と質疑	◎	◎		○	

	応答				
外国人留学生 入学試験	実施していない				